

フレキシブル型モービルマイクロホン

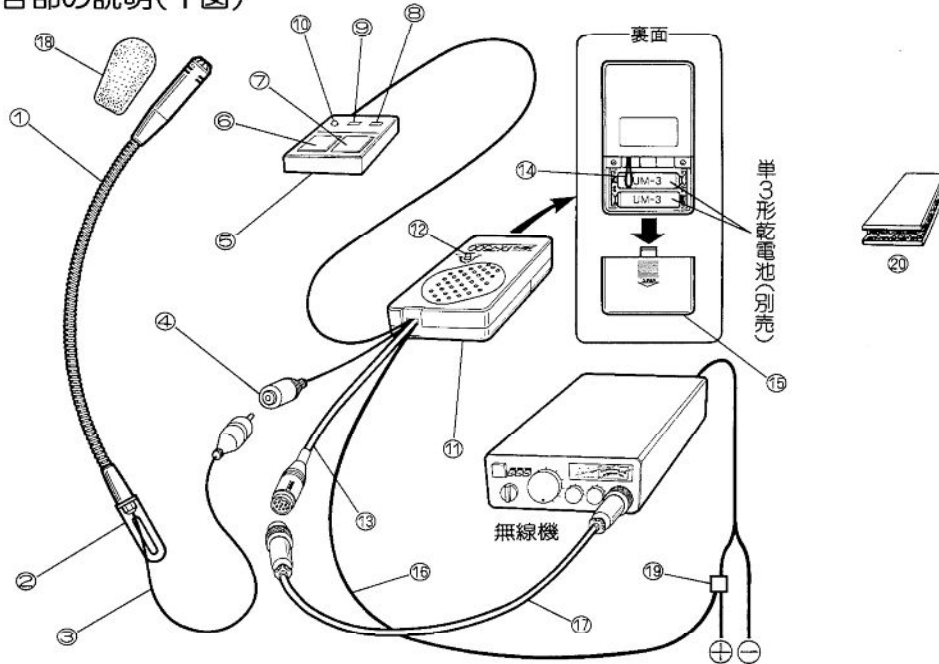
取扱説明書

このたびは、アドニス電機のモービルマイクロホンFX-7500をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

このFX-7500は、警報音付無変調防止回路およびマイク出力調整機能を備えた単一指向性高性能モービルマイクロホンです。モービル運用時の安全性を考慮し、送受信切換時には電子音で知らせます。しかも、3電源方式の採用により、乾電池、車載/バッテリー(DC12V)、または無線機(マイクコネクター)のどこからでも電源の供給が可能です。

また、PTTスイッチもフラット型を採用した為、ダッシュボードやコンソールなど取付け場所を選べます。ご使用に際しましては、本機の性能を十分に発揮させていただき為この説明書をよくお読みいただき、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。なお、この取扱説明書は保証書と共用になりますので、お読みになった後も大切に保管してください。

●各部の説明(1図)



- | | | | |
|---------------|-------------|-------------------|-------------|
| ①フレキシブルマイク | ⑦LOCKスイッチ | ⑬出力コード(8P中継ジャック付) | —— 付属品 —— |
| ②止め金具 | ⑧UPスイッチ | ⑭無変調防止回路解除ノード線 | ⑬風防(青) |
| ③ピンプラグ付マイクコード | ⑨DOWNスイッチ | ⑮電池アダプタ | ⑭電源供給用コネクター |
| ④マイク入力ピンジャック | ⑩送信表示ランプ | ⑯電源供給線 | ⑮マジックテープ |
| ⑤スイッチボックス | ⑪コントロールボックス | ⑰マイク変換コード(弊社製別売) | |
| ⑥PTTスイッチ | ⑫出力調整ボリューム | | |

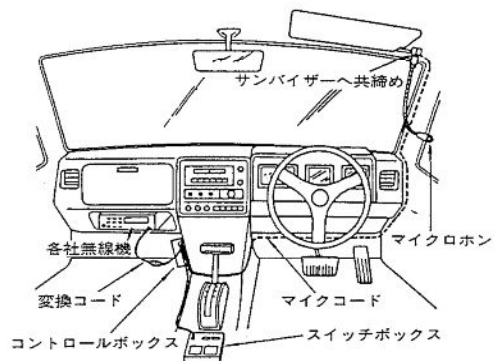
●取付方法および接続方法

- フレキシブルマイク①の止め金具②を、サンバイザーと共締めするか、適当な場所へ工夫して取付けてください。(風防⑬をフレキシブルマイク①に付けてご使用ください)
- スイッチボックス⑤は、裏側の刻離紙をはがし、チェンジレバー付近など比較的操作のしやすい運転のさまたげにならない場所に貼り付けてください。(貼付部分の水分・油分・汚れをよく拭きとってから貼り付けてください)
- コントロールボックス⑪から出ているマイク入力ピンジャック④に、ピンプラグ付マイクコード③を差し込んでください。
- ご使用の無線機に適合したマイク変換コード(弊社製別売)⑰を出力コード⑬と無線機の間接続してください。(マイク変換コード⑰には方向性がありますので、ご確認の上間違わないように接続してください)
- 右ページの“●電源供給について”欄を参照し、本機に電源を供給してください。
- コントロールボックス⑪は運転の妨げにならない場所に、付属のマジックテープ⑮を使用して固定してください。

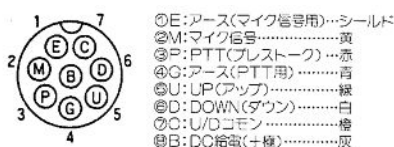
●電源供給用コネクター⑱の接続方法 (2図)



●取付例(3図)



●8ピンアドニス配列(3図) (出力コード⑬)



●ご使用方法

- PTTスイッチ⑥を押した瞬間に“ピッ”という音が出て、押している間だけ送信表示ランプ④が点灯し、送信状態になります。離すと受信状態に戻ります。ショート-QSO時に使用すると便利です。また、LOCK(連続送信状態)を解除したい時に使用します。
- LOCKスイッチ⑦を押すと“ピー”という音が出て送信表示ランプ④が連続点灯し、連続送信状態になります。PTTスイッチ⑥を押して、離れた時に受信状態に戻ります。
- UPスイッチ⑧およびDOWNスイッチ⑨は、無線機付属のマイクロホンのUP・DOWNスイッチと同じ動作をします。(詳しくは、無線機の取扱説明書をお読みください)
- マイク部の先端から口元までの距離が10cm以内になるようにしてご使用ください。
- 出力レベルの設定は、適正なレベルになるように調整されていますが、変調が深すぎたり浅すぎたりする場合には、下記の変調にて適正なレベルになるように調整してください。

出力調整ボリューム⑩を右(時計回り)に回すと出力は増加し、左(反時計回り)に回すと減少します。
ローカル局にモニターしてもらいながら、4区に表示してある回転範囲内をマイナスドライバーで静かに回して調整してください。(左右に約90度しか回りません)
回し過ぎますと、破損する恐れがありますので十分注意してください。
なお、4区的位置でほぼ中央になります。



●無変調防止回路について

LOCKスイッチ⑦が不用意に作動した場合、または通常の交信においても、送信状態が約2~3分間続けばアラーム回路が作動し、警報音が約30秒間鳴った後、自動的に受信状態に戻ります。
警報音を止めて続けて送信したい場合は、もう一度LOCKスイッチ⑦を押してください。

●無変調防止回路を解除したいとき

無変調防止回路を解除したいときは、無変調防止回路解除リード線⑪を切断してください。

●電源供給について

本機は、3電源方式の採用により、乾電池(単3形乾電池×2本)、車載バッテリー(DC12V)または無線機(マイクコネクター)のどこからでも電源の供給が可能です。

●乾電池で電源を供給する場合

乾電池で運用する場合は、コントロールボックス⑫の表面の電池ボックス⑬をはずして、単3形乾電池2本(別売)を極性を正しく挿入してください。

- 本機を単3形乾電池で運用している時に、次のような状態の時は乾電池の消耗が考えられますので、2本とも新しい乾電池と交換してください。
 - 1.送信表示ランプ④が通常より暗くなった時
 - 2.送受信切替時にコントロールボックス⑫からの電子音が小さくなった時
 - 3.無変調防止回路が動作時、警報音が小さくなった時

●車載バッテリー(DC12V)で電源を供給する場合

車載バッテリー(DC12V)で運用する場合は、電源供給線⑭を付属の電源供給用コネクター⑯で無線機の電源の⑰側に接続してください。(2区参照)

●無線機のマイクコネクターから電源を供給する場合

無線機のマイクロホン端子に、電源(DC5~15V・10mA)を供給している無線機で運用する場合は、電源供給型マイク変換コード“Dシリーズ”(弊社製別売)で接続すると、乾電池および電源供給線⑭の配線が不要になります。(詳しくは、弊社製マイク変換コードおよびご使用の無線機の取扱説明書をお読みください)

※車載バッテリー(DC12V)または無線機のマイクコネクターから電源を供給する場合は、乾電池での電源供給はできません。長期間、乾電池を入れたままにすると、液漏れ等により故障の原因となりますのでご注意ください。

●回り込み対策について

ローパワーで送信すれば正常であるのに、ハイパワーで送信した場合変調が異常になったりバリバリという音が混入したり、その他の雑音(マイクに直接入るエンジン音ではありません)が増すことがあります。その場合アンテナと同軸ケーブルとの整合が悪く、定在波がマイクコードに乗っていることが考えられます。したがって、マイクコードの引き回し方を変えると良くなる場合があります。特にマイクコードを同軸ケーブルと平行にしないようにしてください。また、アンテナと送信機とのSWRをチェックしてみてください。

- 車載バッテリー(DC12V)から電源を供給するより、乾電池または無線機のマイクコネクターから電源を供給する方が回り込みに対しては有利です。
乾電池または無線機のマイクコネクターから電源を供給する場合、電源供給線⑭は接続しないでください。

ご注意とお願い

- QSO中や出力レベルの調整を行う時には、マイクロホンを叩いたりしないでください。
- 弊社製以外のマイク変換コードを使用すると正しく動作しない場合がありますので、必ず弊社製を使用してください。弊社製以外のマイク変換コードのご使用によるトラブル、故障等については一切の責任は負いませんのでご了承ください。
- 本機を乾電池で運用する場合は、出来るだけ電池寿命の長いアルカリ乾電池の使用をお勧めします。
なお、長時間(約1ヶ月単位)ご使用にならない場合は、液漏れ等により故障の原因となりますのでご注意ください。
- 車載バッテリー(DC12V)および無線機のマイクコネクターから電源を供給する場合は、乾電池での電源供給はできません。
- 無線機のマイクコネクターから電源を供給する場合、マイクコネクターへの供給電流が約30mA以下の無線機に使用すると、アラーム警報時に正しく動作しない場合があります。
- 直射日光の当たる場所や高温になる場所での使用及び放置は、変形・変質を招き本機に悪い影響を与えますので工夫して高温を避けるようにしてください。
- 本体内部は調整されていますので、不要な改造・調整はしないでください。
- 性能改善の為、予告なく仕様及びデザイン等を変更する場合があります。

【アフターサービスについて】

お買い上げいただきました製品は、厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、万一運搬中の事故などに伴い、ご不審な箇所、または破損などのトラブルがありましたら、お早めにお買い上げいただきました販売店、または弊社に保証書を添えてお申しつけくださいますようお願い申し上げます。